

地域安全学会・年間優秀論文賞を受賞しました（2020/10/31）

テーマ：災害伝承、受賞
場 所：オンライン

10月31日（金）、第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会（秋季）にて、同学会の表彰式が開催され、当研究所の佐藤翔輔准教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）に、2019年の「年間優秀論文賞」が授与されました。同学会の年間優秀論文賞は、当該年度発行の査読論文の中で特に優秀な論文に賞するものです。

佐藤翔輔准教授は、この度、災害の語り部が行う「語り」が、語り部本人、その映像、音声、逐語録（文字）、本人以外からの語りとった伝達媒体ごとに、聞き手の生理・心理・記憶に与える影響の差異を実験的手法によって明らかにした研究成果が高く評価され、2019年の「年間優秀論文賞」の受賞となりました。本来は5月の学会総会にて対面で表彰式を行う予定でしたが、コロナ禍を受けてスケジュールを変更され、かつオンラインでの表彰式となりました。

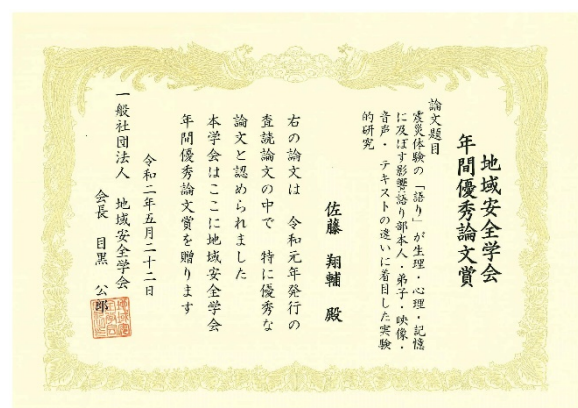
佐藤翔輔准教授は、2013年にも年間優秀論文賞を受賞しており、年間優秀論文賞受賞回数トップタイです（合計2回）。それ以外にも論文奨励賞（2003年）、優秀発表賞（2016年）と、技術賞（2019年）の受賞で、同学会で計5賞を受賞しており、学会最多となります。

受賞

佐藤翔輔、邑本俊亮、新国佳祐、今村文彦：震災体験の「語り」が生理・心理・記憶に及ぼす影響：語り部本人・弟子・映像・音声・テキストの違いに着目した実験的研究、地域安全学会論文集、No. 35、pp. 115-124、2019、11。



受賞した研究論文で紹介している実験の様子



賞状